

氏名	中 濱 一
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3493 号
学位授与の日付	平成12年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Expression of Perlecan Proteoglycan in the Infarct Zone of Mouse Myocardial Infarction (マウス実験的心筋梗塞の梗塞部におけるパールカンプロテオ グリカンの発現)
論文審査委員	教授 大江 透 教授 岡田 茂 教授 佐野 俊二

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

【緒言】パールカンは基底膜プロテオグリカンでIV型コラーゲン、ラミニン等と相互作用する。また、bFGF と結合しその活性を制御することが知られている。梗塞部におけるパールカンの発現と局在を検討しIV型コラーゲン及びbFGF と比較した。【方法】BALB/c マウスの左冠動脈を thermocoagulation し心筋梗塞作成後、経時的に心摘出。それぞれの実験を行った。【結果】ISH：梗塞2日目に梗塞辺縁部にパールカン mRNA の発現を認め7日目には辺縁部での増加に加え梗塞中心部にまで進展した。発現細胞は fibroblast 、 myofibroblast で分布はIV型コラーゲンと一致した。ノーザンブロット法：梗塞2日目より発現の増加を認め7日目に最大となりシャム心の1.99 倍を示した。免疫組織化学：梗塞2日目は辺縁部にわずか7日目には梗塞辺縁部から中心部が染色され14日目には中心部での発現がさらに増加した。bFGF の局在はパールカンと重複した。【結論】梗塞部においてパールカンの発現は増加し梗塞治癒機転への関与が示唆された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は心筋梗塞後のパールカンの発現と局在をマウス実験的心筋梗塞モデルを用いて検討した研究であるが、従来十分確立されていなかった急性心筋梗塞部におけるパールカンの発現に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。
よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。